

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770403327		
法人名	有限会社アロー商事		
事業所名	グループホーム 我が家		
所在地	福島県いわき市平字橋下1番地 (電話) 0246-27-3197		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年1月28日

## 【情報提供票より】(19年10月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 83.5歳	最低	67歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	須田医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建物を改築して使用しており、使い慣れた家具やさりげない装飾等職員の創意工夫により、利用者に居心地の良い空間を提供している。前回の評価で示された改善課題について全職員で改善に取り組み、玄関周りの職員による装飾や共有スペースの利用者にとっての居心地の良い演出、ホーム便りの発行等を行うようにした。又、看護職員を配置した他、バイタルチェック、排泄や水分、食事摂取量チェックなどが一目で分かる工夫を行ったり、かかりつけ医や協力病院との連携を良くとっており、利用者へのサービス向上に役立っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善項目について、ミーティング及び全体会議で取り上げ、玄関周りを家庭的な装飾をにするとともに、ホーム便りの発行等を実施している。又、サービスの向上のため、利用者の生活層に関する家族からの情報収集をする準備を行っている段階である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果の改善を通して、評価を受ける事、あるいは自己評価を行うことの重要性を理解しており、全職員で取り組み管理者がそれをまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)</p> <p>約6ヶ月に1度の開催頻度であり、開催時は現在のホーム及び利用者の状況報告を行っている。開催回数が少ないため、ホームの運営にその協議内容を十分生かされていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会等に訪れる家族から、その都度意見や話を聞いている。ホーム便りも本年10月に第一号を発行したばかりであるが、今後の活用が期待できる。家族会等の意見や苦情を代表してホーム側に伝える仕組みがまだ作られていないため、個人的に発言する家族等の意見などが運営に反映するのは難しい状況にある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の近隣商店への買い物、近隣の散歩等で地域住民と交流がある他、ホーム行事の餅つきへの地域住民の参加、市依頼のキャラバンメイト受け入れ、子供じゃんがら等の訪問等地域との連携は徐々に深まってきている。ボランティアの導入や組織的な交流についてはこれから体制を作る所である。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の協議により「自由、ふれあい、安らぎ」という事業所独自の理念を作り上げている他、見直し等も実施している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングにて理念の唱和を実施する等管理者と職員は理念を共有し、実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	餅つき実施時の地域住民参加や市依頼によるキャラバンメイト受け入れ、子供じゃんがら等の訪問依頼などを行っているが、地域活動への参加が少ない。		ホームの行事等への地域住民の参加やボランティアの受け入れ体制を検討してほしい。また、地域行事へ積極的に参加し、地域住民と交流するよう努めて欲しい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価にて指摘があった事項についてミーティング及び全体会議で取り上げ改善を行う等、評価を行う意義を理解し、ホーム便りを発行を発行するなど具体的な改善を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度1回、今年度は7月に開催しており今後本年末の開催を予定している。利用者の状況、外部評価の報告及び指摘事項改善の取り組み内容等報告している。		開催頻度を増やし、現在の状況を話し合う他、事後報告が多ならない様に工夫し、会議で話し合われる内容がサービスの向上につながるようにして欲しい。又、地域包括支援センターの職員を加える等より外部の声を取り入れるようにして欲しい。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	本年10月に家族等向け広報誌の初版を発行した。又、家族等へ請求書を送付する際、担当者から利用者の状況等について書かれた便りを送付している。		担当者からの便りの内容や書式を工夫し、必要な情報を伝えられるようにして欲しい。又、広報誌も今後定期的に送付すると共に、地域や関係者に配布しホームの存在と活動について理解と協力が得られる様にして欲しい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等により来所する家族等からその都度意見や話を聞いている。又、運営推進会議において家族の話を聞いているが、他に家族等からの意見を聞く仕組みが十分ではない。		利用者家族等の意見を把握するための仕組みを工夫をして欲しい。又、意見や苦情等は記録し、その対応について報告する等して、利用者のサービス向上につながる様にして欲しい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間であり、ユニット合同でのイベントなどにより利用者と職員が顔を合わせる機会を設け、職員の異動時にも利用者の負担が少ない様にしてしている。		さらに広報誌等や家族等への便りを利用して、家族等へも職員の異動や離職等を報告するよう検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、参加した職員は復命をミーティングにて実施しているが、職員のレベルに応じた研修や研修計画は策定していない。		年次及び職員の介護技術レベルなどによる職員育成計画を立て、実施するようにして欲しい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、協議会主催の研修に参加した際に同業他事業所職員と交流を持っている。		連絡協議会での活動に積極的に参加する他、他ホームにアプローチし、互いにサービスの質の向上が図れるような勉強会、相互訪問などを実施し、常時お互いに高めあえるような環境を作って欲しい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が食事の準備など楽しみながら出来る事を支援しながら行ってもらっている。又、その際には、利用者の昔の事などを聞く事により、利用者についての理解を深め、お互いの信頼関係を構築するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの思いや意向を把握する方法について、小ミーティング及び全体ミーティングにて検討を行っている。		利用者の生活歴、現在の心身の状況、家族関係等、利用者本位の生活が送れるための材料を集め、その上でのミーティングを実施する等により、利用者の思いや意向を反映したサービス提供ができるようにしてほしい。
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族等へのカンファレンスを実施し、関係する職員全員で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、担当職員がモニタリングを実施し、介護支援専門員が集約している。又、心身の状態に変化があった場合には、速やかに介護計画を変更し対応している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前のかかりつけ医による継続診療を援助すると共に、近隣の協力医との連携により医療体制を整えている。又、看護職員を雇用しており、よりスムーズに医療機関との連携が行えるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについて試行錯誤しながら、最近終末期のケアを利用者家族と協力医、ホームの連携により実施した。		ホームで体験した終末期のケアの事例等を踏まえて、関係者と話し合いを行い、ホームとしての重度化や終末期のケアについての方針を共有してほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者のプライバシー保護に関する誓約書を会社に提出している。		利用者のプライバシーや個人情報等の秘守義務、利用者の尊厳などに関する研修を実施する等、介護従事者としての意識向上を行う取り組みをして欲しい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの思いや意向の把握のためのアセスメントを実施し、入浴時間や方法、食事の時間など日々の状態に沿った支援を行うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、利用者のやりがいや楽しみを大切に職員と一緒にしている。又、職員も一緒に食事を摂っており、和やかな雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を把握した上で、利用者のペースに添った形で夜間入浴を含め、入浴を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	毎日の生活において、調理や共有スペースの掃除等できる方には役割を持っていただく他、園芸や装飾等ホームでの生活における楽しみや気晴らしの支援をしている。		利用者一人ひとりの生活歴などを把握して、利用者が出来ることを支援するよう検討してほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的な買い物や散歩の他に、季節に合わせた外出もしている。又、利用者が、自宅や家族宅に外泊する際の支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアの重要性を理解しており、センサーと目配りによって対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。又、管理者及び職員1名がホームと同じビルに居住しており、夜間すぐ駆けつけられる体制になっている。		実際の災害時に迅速な対応ができるよう様々な想定を考えて、避難誘導などの訓練回数を増やす他、職員の防災教育も実施して欲しい。又、地域の消防団との連携を持つなどして、地域の人々の協力を得られる環境を整備して欲しい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた調理を行う共に、利用者ごとにバイタル、水分摂取、食事摂取量等が人目で分かるチェック表を活用し、状態の変化に対応できるようにしている。又、定期的な体重測定も実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の家具や調度品、さりげない装飾等、利用者にとって居心地の良い空間が作られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなじみの家具等自宅で使用していたものが持込できるため、利用者は使い慣れた物を持ち込んだりして、安心できる環境が整えられている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 我が家  
記入担当者名 鈴木 英満

評価結果に対する事業所の意見
特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。